

教育新報

新大教育学部同窓会
第 165 号

発行人 安達 徹
事務局 新潟大学
教育学部内
TEL(025)263-6760
印刷所 (株) 文久堂



同窓会新たなステージへ

会長 安達 徹

去る六月一日の評議会で、教育学部同窓会長を仰せつかりました。

前任の佐藤重勝会長はじめ歴代の会長、諸先輩方が、築き上げてこられた同窓会です。「会員の親睦と母校の発展に寄与すること」を目指し、微力ではありますが、精一杯、任期を勤めさせていただく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、新潟大学教育学部同窓会は、昨年度六十周年を終え、新たなステージを迎えました。解決すべき課題もいくつか出てきました。

課題の一つ目は、学生への支援をどのようにしていくかです。

現在教育学部に在籍する学生からは、入学時に同窓会に加入いただいております。その数は、千三百六十九名を数えます。したがって、現在の学生会員に対して、どのような支援をしていくか、

学生のニーズを把握しながら考えていきたいと思っています。

この学生が、来年度卒業し、全国に散らばっていきます。全国各地に先輩がいて、様々な相談ができれば心強いのではないのでしょうか。佐藤前会長様のご尽力で、首都圏同窓会と連絡を取り合い、首都圏同窓会の教育学部同窓会を支部として、位置付ける運びになりました。

このように全国に散らばっている卒業生が互いに連絡を取り合い、旧交を温め合うなどの活動が活発化すること。そして、その情報を同窓会として把握し、情報発信できないか検討していきたいと考えています。全国に散らばっている卒業生、同窓会員のためにどのような活動を行っていくかということが課題の二つ目です。

課題の三つ目は、OB会員の活動支

援です。

教職を退いた後も同窓会員として、「様々な活動に参加していただきたい。相談に乗っていただきたい」と考えております。その際、活動のベースとなる組織が必要です。そこで、生活根拠地に基づく支部組織の再構築が必要となつてきます。生活している地域の支部に所属し、支部活動の一翼を担っていただくことで、同窓会の活動も充実してくるのではないのでしょうか。

このほかにも従来から行っている事業について、更なる充実を期したいと考えています。

たとえば、六十周年を機に「同窓生の集い」の持ち方を見直し、音楽会から講演会に切り替えて実施しました。中身のある「同窓生の集い」を目指して、会員の皆様から意見をいただければ幸いです。

また、母校である新潟大学教育学部がより発展していくように直接的に支援していくことはもちろんですが、全学同窓会の事業への参加・協力も母校の発展に寄与することにつながっていくと考えます。

新潟大学教育学部同窓会は、「同窓生同士の親睦と母校の発展に寄与する」ために、多くの会員の皆さんに参加していただくこと。互いに声を掛け合いながら、活動していくことが大切と考えています。

花鳥風月

今年のNHKの大河ドラマ「八重の桜」では、会津が生んだハンサムウーマン「新島八重」が取り上げられ一躍脚光を浴びています。会津の方々にとつてはまさに地元の誉です。

その新島八重と同じ時代を生き、八重の兄山本覚馬と佐久間象山の下でともに学んだ越後人がいます。長岡藩家老河井継之助です。幕末の越後を語る時、藩の財政を立て直し、近代化を推し進めた河井継之助を、越後人の私としては忘れることは出来ません。

彼は決して好戦家ではありませんでした。戊辰戦争では、当初中立的な立場をとり何とか城下を戦火にさらすまいと努力します。しかし、小千谷談判が決裂に終わると、奥羽越列藩同盟に加わり、長岡藩を率いて北越戦争に突入します。だれよりも聡明で時代の流れをつかみ、また、戦うことを最後まで避けようとしていた彼が、なぜ戦いに挑んだのでしょうか。私はそこに越後人の「義」の心を感じずにはいられません。

「八十里 腰抜け武士の 超す峠」
河井継之助がどんな思いでこの句を詠み生涯を終えたのか、改めて学び直してみたいと思います。(本多郁代)

評議会の報告

六月一日(土)新潟教育会館を会場に、鶴田一雄副学部長、顧問の藤井保男様、斎藤寿一郎様を来賓に迎え、同窓会の評議会が開催された。

昨年度同様、評議会の前に支部長・学科代表者全体会と各部会を開催した。

評議会では、平成二十四年度会務報告・会計決算報告があり、二十五年度本部役員が承認された。続いて本年度の活動の重点と各専門部の活動計画、予算案の提案があり、いずれも全会一致で承認された。



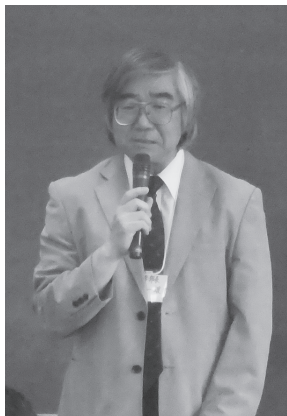
あいさつする佐藤重勝前会長

冒頭、佐藤重勝会長から、来賓をはじめとして各支部長、学科代表者へのお礼の言葉があった。続いて、

①昨年は同窓会創立六十周年を終えた。今年は六十一年目という新たな年で

ある。会則にもあるように、会員相互の親睦と母校の発展に寄与できる同窓会であってほしい。

②全国で教育学部が二つあるのは新潟県のみである。新潟大学教育学部の存続は同窓会によるところが大きい。これからも活動を充実させてほしい。などのお話があった。



祝辞 鶴田一雄副学部長

続いて、鶴田副学部長からご祝辞をいただいた。同窓会への感謝の言葉と同窓会のために大学ができることをしていきたいという言葉をいただいた。また、教育実習で学生の実践力・即戦力を高めることに力を入れていること、教員採用の取組、大学の情勢についてお話をいただいた。

二十五年度本部役員では、安達徹新会長が承認された。佐藤重勝会長から

退任の挨拶があり、役員十四年、会長三年に及ぶ長い間の支援・協力へのお礼の言葉をいただいた。続いて、安達徹新会長から、次のような活動の重点が示された。

二十五年度活動の重点

教育学部同窓会のより良い在り方を求めるとともに、大学との連携を重視しながら同窓会活動の一層の充実を目指す。

一「同窓生の集い」の充実

- ・内容を講演会とし、学科持ち回りで行うよう検討する。
- ・当該学科を中心とした絆強化の機会とする。

二 広報活動の充実

- ・会員への情報提供及び情報交換の場として、ホームページの活用を図る。
- ・適宜更新を行い、最新の内容で載せるように努める。
- ・情報発信だけでなく、会員の声を聞くことができるようなホームページの作成を検討する。広報部の中にホームページ担当を置くことを検討する。

- ・より親しまれる「教育新報」を目指すし、内容の一層の充実を図る。

三 組織の充実と強化

- ・教育学部卒業生が所属する首都圏

四 大学との連携

- ・母校の発展のための支援を推進する。

- ・学部教官の同窓会活動への参加を働き掛ける。

五 全学同窓会との連携

- ・全学同窓会交流会への参加を促す。
 - ・「新潟大学カード」の利用を促す。
- 最後に、顧問の藤井保男様から、ご指導と激励の言葉をいただき、閉会となった。



榎谷 秋男 事務局長

(広報部長 本間正人)

平成二十五年度 専門部活動計画

◆ 研 修 部 ◆◆◆◆◆

部長 渡辺 真也

一 研修部活動計画

研修部では、同窓生が親睦を深めるとともに自己の人間的な資質を高めることを目的に本年度事業を以下のように計画いたしました。多数の皆様参加をお願いいたします。

二 事業内容

「第四十回同窓生の集い」

- ・期 日 十二月十四日(土)
- ・会 場 「新潟会館」

新潟市中央区幸西

- ・記念講演(二時～三時四十分)

「ギムナストラード」

「体操への道」

講 師 滝澤かほる

新潟大学名誉教授

- ・懇親会(四時～六時)

申込等詳しいことは十ページをご覧ください。

◆ 広 報 部 ◆◆◆◆◆

部長 本間 正人

一 基本方針

○会員の活動や大学等の様子を紹介することにより、同窓会の士気を高める。

○大学との連携をより一層密にした活動の推進を図る。

二 活動内容の概要

○第一六五号(七月発行予定)

巻頭言 花鳥風月

評議会の報告

二十五年活動計画(各専門部長)

本部役員、支部長、学科代表一覧

支部・学科代表者会報告

支部や学科の活動紹介

大学教官の異動及び大学のコーナー

「同窓生の集い」の広報

○第一六六号(二月発行予定)

巻頭言 花鳥風月

「同窓生の集い」の報告

学校紹介(小・中・特別支援学校)

大学のコーナー

二十五年会務報告

大学教官との懇談会の報告

会員の広場

同期の活動紹介

三 お 願 い

・教育学部、会員、支部、学科、同期の活動について、積極的な情報提供をお願いします。

◆ 組 織 部 ◆◆◆◆◆

部長 笹原ミヨシ

一 活動の重点

①支部及び学科部との連携を図り、会員の連帯意識の高揚に努める。

②準会員とその保護者に対して、同窓会活動への理解を得るように努める。

③支部組織の改編に向けた諸活動の検討を行う。

二 活動の内容

①支部長・学科代表者全体会

平成二十五年六月一日(土)

同窓会の現状と課題について

②支部長会の開催

平成二十五年六月一日(土)

支部の状況、会費納入などの情報交換を、学科代表者会と同時程で別室において行う。

③学科代表者会の開催

平成二十五年六月一日(土)

学科の状況、学科の集いの開催、会費納入などの情報交換を行う。

三 そ の 他

①教職退職者への対応

②学部入学生、学部卒業生への対応

③支部組織・同窓会組織再編の検討

◆ 交 流 部 ◆◆◆◆◆

部長 山下あい子

交流部は、今年度も次のような活動を計画しています。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

一 新潟大学教育学部教職員と同窓会役員との「懇談会・懇親会」の開催

互いの現状を報告し、意見交換しながら交流を深め、意思の疎通を図る。

○大学・学部の現状と主な取組

○卒業生の就職状況と現場との連携

○同窓会の活動への提言 など

二 教育学部の学生、卒業生の就職活動への支援体制の整備

学生・卒業生の就職活動への具体的な支援について、大学・学部と話し合い、対応策を考え、連携・協力する。

三 会員への働き掛けと資質・指導力の向上

今年度からの永年会員卒業生への働き掛けや交流の仕方について検討する。大学との連携を深め、会員の資質や指導力向上に資する。

四 当県の各種教育関係機関、他団体等との連携促進

全学同窓会交流会への参加 など



支部・学科代表者会の報告

平成二十五年六月一日(土)、青空

の広がる暑い一日でしたが、十三時から新潟教育会館において支部長・学科代表者全体会、引き続き支部長会、学科代表者会を開催しました。

以下、会の概要をお知らせいたします。

支部長・学科代表者全体会

佐藤重勝会長から開会のあいさつをいただきました。その中で、まず、多くの同窓会関係者の方々のご尽力で、昨年創立六十周年を迎えることができたことに感謝の言葉がありました。そして、今後の更なる発展のために、会員の親睦を深め、母校である教育学部の発展に寄与するという同窓会の役目のもと、組織の充実を図っていくことが必要である。そのためにも、支部長・学科代表者会での情報交換等を大事に、各支部・各学科で同窓会への所属意識を高めていってほしいとお話がありました。

支部長会

三十五支部中十八支部の支部長が出

席されました。

始めに事務局より、支部の現状、支部編成、会費納入状況、学校代表者報告状況等について話がありました。その中で、今年度より、各学校における同窓会員の確認については本人の確認印やサインをお願いしたことについての説明がありました。

その後、支部での取組の紹介やそれぞれの支部の現状、課題など忌憚のない意見交換がなされました。

異動等で、会員の把握が難しくなっていること、年々、個人情報保護のため、会員の情報を得にくくなってきていること、いよいよ来年三月に永年会員の学生が卒業を迎え、永年会員とそうでない会員が支部内に在籍することになり会費納入時に気をつけなければならないこと、などいろいろと意見が出されました。そのような状況の中であるので、事務局からは、会費については、慎重に集めてほしいとお願いがありました。また、退職された会員と支部とのつながりをどう図っていくかも課題として出されました。

最後に事務局から、各支部において

同窓会として研修会などを行った場合の補助金について説明があり、大いにその補助の制度を活用してほしいというお話がありました。



学科代表者会

十四学科の代表者が出席されました。学科の現状や課題等についての情報交換の場では、今年度の学科の会の持ち方、大学の教官とのつながりをどうしているか、名簿の作成等について、お話をいただきました。

毎年学科の集いを行っている学科、学科の集いに教官をお招きしている学科、複数の教官をお招きして、「お話

を聞く会」を設けている学科もありました。また、教官とのつながりだけでなく、卒業論文の発表会等に参加して学生とのつながりを大事にしているという学科もありました。さらに、学科の便りを発行したり、本人に掲載の確認をとり名簿を作成・発行したりという工夫なども紹介されました。

様々な意見交換が行われ、有意義な会となりました。



(組織部長 笹原ミヨシ)



支部の活動

村上支部・関川支部合同

「文化講演会」の実施

関川支部長 野澤 一 吉

(関川中学校)

平成二十四年度の支部代表者会の日、村上支部長佐野一彦先生から、「今年が同窓会創設六十周年に当たるから、それを契機にして合同で研修会を開催しませんか」とお声を掛けていただきました。何年間も支部活動が行われていないこともあり、同窓会員相互の顔が分かり、支部組織として機能させる上でも実行しようと考え、計画を立案することにしました。会員が気軽に参加できる形態にするために、講演会の開催を考えました。佐野先生の推薦により、講師を、南極観測越冬隊員の経験がある、村上市消防本部次長小田幸男様に依頼しました。

二十名程の参加でしたが、講演が、実体験に基づいた内容であり、私たちには驚きの連続でした。南極圏に到達する前の荒波、南極圏の静寂さ、南極大陸上の移動の危険さ、ペンギンの愛らしさ、濃紺の青空と数十cm先が見えない何日間も続く猛吹雪。氷を分析することで、宇宙の過去と数万年前の地



球環境を知り、これからの環境保全を研究する越冬隊員の仕事。研究、医療、建築、教育、料理、救助等の異種のスペシャリストが集合した隊員の生活の表と裏。想像もできない世界の内容ではありますが、よりよい教育を求める私たちにとって貴重な機会となりました。

新潟大学教育学部は、歴史と伝統のある学部です。これまで、すばらしい教員を多く輩出してきました。私は、同窓生としてプライドをもち、謙虚に多くの研修を積み、成長していきたいと考えています。

新湯大学教育学部は、歴史と伝統のある学部です。これまで、すばらしい教員を多く輩出してきました。私は、同窓生としてプライドをもち、謙虚に多くの研修を積み、成長していきたいと考えています。

学科の活動
《養護教諭特別別科》

縦のつながりと

横の絆を大切に

養護教諭特別別科代表 田村 香代子

(県立西新発田高等学校)

養護教諭特別別科は、教育学部の中でも異色の学科です。在籍年数は一年、入学した時には先輩がおらず、先輩・後輩のつながりが持てないシステムにあつて、三十四期生が在籍する現在も綿々と同窓会は運営されています。

これもひとえに、諸先輩方が築き上げてくださった同窓会の組織力、ご尽力のたまものと思っています。

これまでは毎年、同窓会総会を開催し、一年に一度同期生や諸先輩・後輩の方々とお会いする機会を設けていました。

昨年度は第三十回同窓会総会が盛大に開催され、これまで養護教諭特別別科に関わってくださった先生方や一期生の山田様のスピーチなど、これまでの同窓会の歩みを知る貴重な時間を持つことができました。

また、後段の会食では期の垣根を越えた多くの方々と懇談することができ、改めて別科同窓会の良さと大切さを感じることができました。

しかし、同窓会運営費の問題や遠方からの会員の参加、参加者数の減少など様々な点を考慮して総会の持ち方を検討し、今年度より総会開催を隔年とすることとしました。

総会開催は隔年となりましたが、これまで通り理事会の開催や会報の発行などで途切れない同窓会の運営、また縦（先輩・後輩）のつながりと横（同期生）の絆を大切に活動を持続していきたいと思っています。

会則の変更

や同窓会事業の再検討など、新たな課題をより良い方向で解決しながら、これからも養護教諭特別別科同窓会の活動を広げていきたいと考えています。

平成24年度 一般会計決算報告

1. 収入の部

項 目	24年度決算額	24年度予算額	摘 要
1 繰 入 金	7,900,000	7,900,000	総合会計から繰入れ
2 雑 収 入	2,299	200	利息、名簿売却
合 計	7,902,299	7,900,200	

2. 支出の部

項 目	24年度決算額	24年度予算額	摘 要
1 会 議 費	78,242	120,000	本部会、会計監査、評議会、役員会等
2 旅 費	213,140	300,000	役員旅費
3 助 成 費	468,170	500,000	学科助成、支部助成
4 事 務 局 費	479,225	600,000	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、送料等
5 研 修 費	298,042	600,000	同窓生の集い企画運営費等
6 広 報 費	914,471	1,100,000	機関紙発行・送付、H P、パンフレット作成費用
7 組 織 費	96,762	100,000	支部長・学科代表者会、名簿メンテナンス代等
8 交 流 費	119,850	120,000	交流会企画運営費、参加助成
9 大学・学生支援費	1,146,624	1,500,000	研修会参加助成、学生手当助成、卒業祝賀会助成等
10 全学同窓会費	942,575	1,000,000	負担金、全学交流会助成等
11 渉外・厚生費	135,086	120,000	祝儀、香典、会場借用費等
12 人 件 費	1,576,000	1,720,000	事務局報酬2名 補助員手当
13 その他予備費	107,283	120,200	コンピュータ・プリンター買換え
合 計	6,575,470	7,900,200	

3. 残高の部 7,902,299－6,575,470＝1,326,829円は、平成24年度総合会計に繰り入れます。

平成24年度 総合会計決算報告

1. 収入の部

項 目	24年度決算額	24年度予算額	摘 要
1 会 費	3,772,230	3,768,000	会費－振込手数料
2 永 年 会 費	10,564,080	10,087,800	会費－振込手数料
3 入 会 金	0	0	
4 繰 越 金	17,050,367	17,050,367	
5 年度末繰入金	1,326,829	0	一般会計残金
6 雑 収 入	1,447	333	銀行利息
合 計	32,714,953	30,906,500	

2. 支出の部

項 目	24年度決算額	24年度予算額	摘 要
1 一般会計繰入金	7,900,000	7,900,000	

3. 残高の部 32,714,953円－7,900,000円＝24,814,953円は、来年度に繰り越します。

◎新しくおいでになった先生

准教授 釜本 健司 (社会科教育)
小泉 明子 (法律学)
(以上 九月一日付)

教授 木村 政伸 (日本教育史)
(一〇月一日付)

教授 張間 忠人 (代数学)

准教授 前田 洋介 (人文地理学)
古田 徹也 (哲学・倫理)
(以上 四月一日付)

◎このほか、教授に昇進された先生

教授 神村 栄一 (教育心理学)
(平成二十四年七月一日付)

麓 慎一 (日本近代史)

向山 恭一 (政治思想)

高橋 桂子 (生活経営・女子労働)
(以上 四月一日付)

◎学部を去られた先生

教授 五十嵐 尤二 (理論物理学)
滝澤 かほる (保育体育科)

岡村 光展 (人文地理学)

高野 道夫 (数理論理学)
(三月三十一日付 定年退職)

児玉 康弘 (社会科教育)
(八月三十一日付 兵教大へ)

大学教官の異動
(昨年の七月以降)

平成25年度 一般会計予算

1. 収入の部

項 目	25年度予算額	24年度予算額	摘 要
1 繰 入 金	7,700,000	7,900,000	総合会計から繰入れ
2 前 年 度 繰 越 金	0	0	
3 雑 収 入	200	200	
合 計	7,700,200	7,900,200	

2. 支出の部

項 目	25年度予算額	24年度予算額	摘 要
1 会 議 費	100,000	120,000	本部会、会計監査、評議会、役員会等
2 旅 費	250,000	300,000	役員旅費、会員旅費
3 助 成 費	500,000	500,000	学科助成、支部助成
4 事 務 局 費	500,000	600,000	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、送料等
5 研 修 費	400,000	600,000	同窓生の集い企画運営費等
6 広 報 費	1,290,000	1,100,000	機関紙発行・送付、H P、同窓会60年誌作成費用
7 組 織 費	100,000	100,000	支部長・学科代表者会、名簿メンテナンス代等
8 交 流 費	130,000	120,000	交流会企画運営費、参加助成
9 大学・学生支援費	1,500,000	1,500,000	研修会参加助成、学生手当助成、卒業祝賀会助成等
10 全 学 同 窓 会 費	1,000,000	1,000,000	負担金、全学交流会助成、運営委員旅費等
11 渉 外 ・ 厚 生 費	130,000	120,000	祝儀、香典、会場借用費等
12 人 件 費	1,700,000	1,720,000	事務局報酬 2 名、手伝い報酬
13 その他 予備費	100,200	120,200	
合 計	7,700,200	7,900,200	

平成25年度 総合会計予算

1. 収入の部

項 目	25年度予算額	24年度予算額	摘 要
1 会 費	3,480,000	3,768,000	会費－振込手数料
2 永 年 会 費	10,087,800	10,087,800	会費－振込手数料
3 繰 越 金	24,814,953	17,050,367	前年度繰越金
4 年 度 末 繰 入 金	0	0	年度末に一般会計残金を繰入れ
5 雑 収 入	747	333	銀行利息
合 計	38,383,500	30,906,500	

2. 支出の部

項 目	25年度予算額	24年度予算額	摘 要
1 一般会計繰入金	7,700,000	7,900,000	一般会計予算費用

●会費納入のお願い
二十五年年度の納入をお願いします。
教職員の皆様は、各学校・職場ごとの納入になりますので、それぞれの幹事の方にお届けください。
幹事様あてに振込用紙を送りますので、大変お手数をお掛けしますがよろしくお願いたします。（個人会員の方には個別にお送りします。）

●新潟大学・全学同窓会交流会
・期日 平成25年10月26日（土）
・会場 ANAクラウンプラザホテル新潟
・研究紹介・助成金贈呈式・記念講演
・講師 林 正勝氏（国際大学特別顧問）
「成長戦略と人材育成」
●同窓生によるコンサートのお知らせ
・期日 平成25年9月2日（月）
午後6時30分
・会場 新潟市民芸術文化会館
コンサートホール
国際的なヴァイオリニストとして活躍されている中澤さみ子さんの演奏会です。主催は、21期特別音楽科の卒業生の有志です。（教育学部同窓会後援）チケットは現在、プレイガイドで販売中です。中澤宗幸さん制作の「津波ヴァイオリン」も紹介されます。



平成25年度

同窓会本部役員

<任期は25～26年度>

役 職		氏 名	支部	校名など
会 長		安達 徹	新潟	新津第二小学校
副 会 長		宮川由美子	新潟	巻南小学校
		大山 明雄	長岡	大島小学校
		白杵 勇人	新潟	大鷲小学校
		三間 強	新発田	五十公野小学校
事 務 局		櫛谷 秋男	新潟	教育同窓会事務局
		滝澤恵美子		
専 門 部	研 修 部	◎渡辺 真也	新潟	根岸小学校
		○小泉 慎子	新潟	小林小学校
		福田 愛日	新潟	万代長嶺小学校
		塚本 弓子	新潟	豊照小学校
		倉嶋 昭久	新潟	南浜中学校
		◎本間 正人	阿賀野	笹岡小学校
	広 報 部	○本多 郁代	新潟	豊照小学校
		江口 範文	小千谷	小千谷小学校
		佐藤紀代子	新潟	山田小学校
		國井恒太郎	新潟	巻南小学校
	組 織 部	◎笹原ミヨシ	加茂	七谷小学校
		○内木 正宏	新潟	青山小学校
		本間アユ子	新潟	新関小学校
		小見芳太郎	長岡	上川西小学校
		加藤 雅晃	新潟	亀田東小学校
役 職		氏 名	支部	校名など
専 門 部	交 流 部	◎山下あい子	新潟	岩室中学校
		○小竹 智	新潟	鳥屋野中学校
		※鶴田 一雄	大学	新潟大学教育学部
監 事		松井 裕美	新潟	越前小学校
		佐藤 文俊	新潟	新潟市教委学校支援課
		佐藤 宏欣	新潟	内野中学校
顧 問		中川 幸次	長岡	自宅
		江口 直禎	新潟	自宅
		大関 雄策	新潟	自宅
		安藤 耕平	新潟	自宅
		磯辺 浩昭	新潟	自宅
		藤井 保男	新潟	自宅
		斎藤寿一郎	新潟	自宅
		佐藤 重勝	新潟	自宅
新潟大学全学同窓会	理 事	安達 徹	新潟	新津第二小学校
		里村 俊夫	新潟	自宅
	運 委 員	菱田 由美	新潟	新潟市教委学校支援課
		茨木むつ子	新潟	新潟市児童センター
		岡村 浩	大学	新潟大学教育学部
		駒澤 一彦	新潟	自宅

平成25年度

同窓会学科代表

	学科名	学科代表	校名など
1	国 語	伊藤 守	阿賀野市教育委員会学校教育課
2	地 理	川瀬 隆史	江南高等特別支援学校
3	歴 史	津野 治彦	曾野木小学校
4	経 済	長沼 智之	巻南小学校
5	哲 倫	田口 秀行	城北中学校
6	社 会	土田 宏美	新道小学校
7	算 数(親話会)	高橋 雄一	新潟小学校
8	数 学	筒井 稔	葛塚中学校
9	物 理	茂呂 良彦	保田小学校
10	化 学	栗林 操	加茂中学校
11	生 物	緒方 猛	中野小屋中学校
12	地 学	高橋 克哉	上野小学校
13	英 語	金子 一男	新潟第一高等学校
14	音 楽	斎藤 隆	舟栄中学校
15	美 術	野川 彰夫	江南小学校
16	保 健 体 育	市島 誠一	白根北中学校
17	家 庭[萌木会]	飯塚真理子	自宅
18	職 業 指 導	松村 明彦	新津第五中学校
19	教 育	佐々木 研	自宅
20	教 育 心 理	小林 広紀	新潟市総合教育センター
21	技 術	白石誠史郎	濁川中学校
22	特別支援教育	中村 美紀	附属特別支援学校
23	養教特別別科	田村香代子	西新発田高等学校
24	幼 稚 園	近藤 和徳	新潟市立沼垂幼稚園
25	学社ネットワーク	小柳加奈子	田上町役場健康福祉課
26	学社ネットワーク課程	木村 敏樹	新潟市役所市民納税課
27	生 活 科 学	眞邊麻依子	安田中学校
28	生活システム	大森 山	城西中学校
29	健康スポーツ	大口 良平	下早川小学校
30	書 道	岡村 浩	新潟大学教育学部

平成25年度

同窓会支部長

地域	番号	支部名	支部長	校名など
上越	1	上 越	八川 亨	南川小学校
	2	長 岡 東	三澤 淳伸	山古志中学校
	3	長 岡 西	木曾 隆一	越路小学校
	4	三 条	廣川 公一	大崎小学校
	5	柏崎・刈羽	吉田 孝則	鯨波小学校
	6	小 千 谷	青木 新一	千田中学校
	7	加 茂	早川 敬一	須田小学校
	8	十 日 町	青柳 康仁	川治小学校
	9	見 附	川崎 久雄	名木野小学校
	10	燕	洪木 保之	分水北小学校
	11	魚 沼	藤井 大輔	小出小学校
	12	南 魚 沼	浅井 弘行	後山小学校
	13	弥 彦	服部 裕行	弥彦中学校
	14	田 上	原 秀栄智	羽生田小学校
	15	湯 沢	岡村 秀一	湯沢小学校
	16	出 雲 崎	南雲 敏行	出雲崎小学校
	17	津 南	今年度欠員	
中越	18	新 潟 北	筒井 稔	葛塚中学校
	19	新 潟 東	宮内 章	下山小学校
	20	新 潟 中 央	吉澤 志保	万代長嶺小学校
	21	新 潟 江 南	今井 真悟	早通小学校
	22	新 潟 秋 葉	永井 達哉	小須戸小学校
	23	新 潟 南	加藤 文子	庄瀬小学校
	24	新 潟 西	須田 哲明	山田小学校
	25	新 潟 西 蒲	太田 伸男	湯東東小学校
	26	新 発 田	佐久間州彦	車野小学校
	27	村 上	遠藤 友春	村上小学校
	28	五 泉	佐藤 元彦	村松小学校
	29	阿 賀 野	安達 清重	安野小学校
	30	胎 内	伊藤 博	胎内小学校
	31	聖 籠	佐藤 政志	聖籠中学校
	32	阿 賀	藤崎 善之	三川小学校
	33	関 川	野澤 一吉	関川中学校
	34	粟 島 浦	本保 次世	粟島浦小学校
	35	佐 渡	渡部 栄二	八幡小学校

大学のコーナー

「教員養成と教職サポートルーム」

教育学部副学部長 高 木 幸 子

教科教育を担当する教員として本学部で十年目を迎えるが、毎年、教員を目指す学生、迷う学生、他の職種に進路変更する学生などの様々なかかわりを経験する。学生たちと話し、その様子を見ながら、学生時代に何を考えどのような経験を積むことが必要なのだろうか考える機会が増えている。

中教審答申「教職生活の全体を通じて教員の資質能力の総合的な向上方策について」（平成二十四年八月二十八日）では、多様な課題に対応している教員像が求められている。具体的には、社会から尊敬や信頼を受けることのできる教員、思考力・判断力・表現力等を育成できる実践的指導力を有する教員、困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応できる教員などの姿が描かれている。

自分自身の学生時代とは比較にならないスピードと広がり度で社会が変化し、

教員に求められる資質能力は複雑かつ高度になっている。さらに、それぞれの勤務する地域の実情や実態に合わせてより多様で即時的な対応を行う力量が求められる時代となっている。

教員養成学部に対しても、そのありようが厳しく問われており、本学部でも、教職支援内容や体制の整備を進めているところである。本稿では、今年度実施している教職支援講義・演習・実技支援の内容と、支援拠点として教育学部棟一〇一講義室に設置した教職サポートルームについて紹介する。

一・教職支援講義・演習・実技指導

教育学部教員及び卒業生など、豊かな人的資源に支えられて進んでいるのが、この教職支援講義・演習・実技指導である。例えば、小論文、教職教養、教育心理、特別支援の内容では、教育学部教員が教員採用試験対策の視点と

加えて講義を実施する。また、面接・場面指導や模擬授業は、過去の出題や今年度の範囲を踏まえた学生参加の実践型演習として進められる。さらに、実験操作や実技に関する支援も行われる。具体的には、体育実技（器械運動、ダンス、剣道、ハードル、水泳）、美術（デッサン）、理科実験（化学・地学・生物・物理）、音楽（ピアノ）、家庭（製作実技）などで、これらはどれも教科指導の専門性にかかわる技能面の支援である。

これらの支援プログラムに対して、多くの学生が積極的に参加している。例えば、五月十六日に実施した卒業生の模擬授業見学では、今年度新規採用となった二名の卒業生が、百名近い学生が注視するなか模擬授業を演じた。同席していた私には、学生たちは先輩が創り出す授業の世界に引き込まれながら目指す姿を確かにしているように感じられた。

二・教職サポートルームの概要

実質的な教職支援の拠点として設置した教職サポートルームは、教員採用にかかわる情報提供と情報共有の場と

して位置付けている。具体的には、新潟県・市で主に使用されている小・中学校用教科書・指導書の閲覧、学生間での模擬授業や協議を行える場、より高度なメディアに習熟できる場、本学部学生が受検している主な都道府県市の示す要項や受検した学生からの情報を共有できる場として機能できるよう準備を進めているところである。

教員養成学部の教職支援として、教員になることだけでなく、教員に求められる質の担保を目指す必要があると考えるが、それは、提供する人と場の総和として、近づいていけるものだと思う。学部教員・職員が協力することはもとより卒業生の力もお借りしながら、実質的な役割を担うことのできる教職サポートルームの充実に努めていきたい。



集まれ！同窓生



「第40回同窓生の集い」のご案内

- 1 期 日 平成25年12月14日(土) 13時30分受付開始
- 2 会 場 新潟会館 新潟市中央区幸西3-3-1 ☎025(247)9307
- 3 日 程

13:30	14:00	14:15	15:40	16:00	18:00
受付	開会	記念講演会	移動	懇親会	



記念講演 講 師 滝澤かほる 氏

新潟大学名誉教授(前 新潟大学教育学部副学部長)

演 題 ギムナストラダ ～体操への道～

講師からのメッセージ

ギムナストラダは、世界体操連盟 FIG が主催する「体操の交流」「体操の普及と発展」を目的とした体操発表会で、4年ごとにヨーロッパ各地で開催されています。競技性のないスポーツの可能性追求の場であり、競技大会のオリンピックと同等かつ並列と位置づけられています。実際に参加してみると、全身的でリズムカルな動きの習得をねらいとし、音楽と一体となっていくリズム体操が生涯体育・スポーツとして定着し、様々な喜びを生み出していることが分かります。このような体操は二十世紀初め、ヨーロッパの機械化された社会の中で、知的教育が重視され、人間の心や自然な運動が著しく抑圧されていたのに対し、人間本来の姿を取り戻し、自然な動きを呼び戻そうという流れの中で生まれ発展してきたものです。

リズム体操では「運動像を想像し、自分自身のからだに目を向け、一生懸命に努力して動く楽しさや喜びを味わう」ことができます。その中での「ありがたい自分との出会い」や「自分の可能性の追求」が「こころとからだの解放」につながるということです。

今日の社会や教育の問題にも通じるこのようなリズム体操を紹介し、「自分と体操との関わり」「新潟大学での34年間の振り返り」にも触れ、皆さんとともに今後への道を考えていきたいと思います。

4 問い合わせ・申し込み先

○一般市民への案内はいたしません。

○参加希望の方は、会場準備の都合がありますので、12月10日までにご連絡ください。

新潟大学教育学部同窓会事務局

☎・FAX 025(263)6760

メール dousou@ed.niigata-u.ac.jp

(火曜日から金曜日までの13:00から17:00の間にお問い合わせいたします。)